

古い御知己であり、又私の壽像製作の話聞かれて、大に同情と賛成をせられまして、試験所で試験的に等身の陶像を焼いて見やうと云ふ事になり、約三ヶ年を経てやうやく出来た様の大第であります。私と致しましては、釉薬の色や其他にまだく研究しなければならぬ所があり、又彫刻といたしましては、尙意に満たぬものがあつて、先生の御尊容を表し得なかつたのであります。どうか御受納を得ますならば誠に幸に存する次第であります。

⑩ 依囑製作六曲屏風

昭和十年四月、依囑製作の東京十二景六曲屏風が完成し、四月十日歌舞伎座に於ける東京市主催満洲国皇帝奉迎式に於いて皇帝に献上された。各紙がこれを大きく採り上げているが、四月十日の『時事新報』は次のように報じている。

市献上の屏風完成・あす皇帝陛下へ

歌舞伎御見物の折御座所の後に配す

美校諸教授が精根盡した東京十二景 見事な出来栄

御來訪の御思出のよすがにもと東京市が満洲国皇帝陛下に献上する東京十二景地板嵌六曲屏風一雙は、美術學校の諸教授が精根をつくしてその製作を急いでゐたが本九日見事に出来上り、明十日皇帝陛下が歌舞伎御見物の折御座所の後に配して一層御感興を添へることになつた、この屏風は桐、桑、蒔繪、鑄金、鍛金、彫金等あらゆる美術工藝の粹を集めて合作されたもので、高さ六尺

幅二尺、木目もはつきりした桐の素地に長さ一尺二寸五分、幅一尺一寸五分の東京名所十二景を誠に清楚に織り込み、この桐地下方の蒔繪にはかすかに東京市のマークを浮かしてあると云ふ擬り方で、裏はこの表の清楚さに比し布目に朱塗寶相華の高蒔繪を配してあると云ふ大陸味たつぶりのものである、この構圖は森田〔武〕助教授が一切當り、木工は帝展でも特選を得てゐる淺草橋の稻木春千里氏が製作したものであるが十二景は

日本橋（深瀬嘉臣助教授）赤坂離宮（海野清教授）上野動物園（津田信夫教授）二重橋（松田權六助教授）楠公銅像（丸山不忘講師）湯島聖堂（六角紫水教授）明治神宮（磯矢阿伎良講師）議事堂（内藤春治助教授）東京驛（山崎覺太郎助教授）靖國神社（清水龜藏教授）神宮繪畫館（石田英一教授）永代橋（高村豊周教授）

がそれ／＼擔當して制作に當つたものである。

⑪ 杉田禾堂と大阪府産業工芸博覧会

昭和十年六月八日から二十八日まで、大阪府立貿易館で大阪府産業工芸博覧会が開催された。「工芸品の工業化、工業品の工芸化」をスローガンとするこの初めての博覧会には、大阪府商工技師にして昭和七年六月同府立工業奨励館工芸産業奨励部の初代部長となつた杉田禾堂（精二）が大きな役割を果たした。禾堂は明治四十五年に鑄造科を卒業し、大正八年に講師に就任（鑄造実習担当）。金工研究会および无型の中心人物で、日本工芸美術会の創立や、帝展第四部創設にも重要な役割を果たした。昭和二年、初の帝展第四部の